

2011年3月期

第2四半期決算説明会

2010年 11月

レシップホールディングス株式会社

LECIP
GROUP

2010年10月1日、**純粋持株会社体制**へ移行し、**「レシップホールディングス(株)」**として、新たなスタート。

- ▶ 当社グループを統括してグループ全体を効率よく、運営管理できる体制の整備
- ▶ 経営資源の重点的かつ効率的な投下
- ▶ 出資を伴う業務提携等の検討推進

グループ全体の成長戦略の強化

コーポレートガバナンスの強化

マネジメント人材の強化

海外事業戦略の再構築

▶ **当社グループ全体の企業価値の最大化**

■ ポイント

- 2010年10月1日、従来のレシップ(株)が、純粋持株会社「レシップホールディングス(株)」へ移行。グループ戦略本社機能・グループサポート機能を担う。
- 同時に、新設分割の方式により、レシップ(株)と、レシップインターナショナル(株)を会社分割。
- 国内事業部門は、分割により新たに設立したレシップ(株)が継承。
- 海外事業部門は、分割により新たに設立したレシップインターナショナル(株)と、2010年3月、米国に設立したLECIP INC.が継承。

移行後の体制

■ 移行前

※ は、連結対象会社。



■ 現在

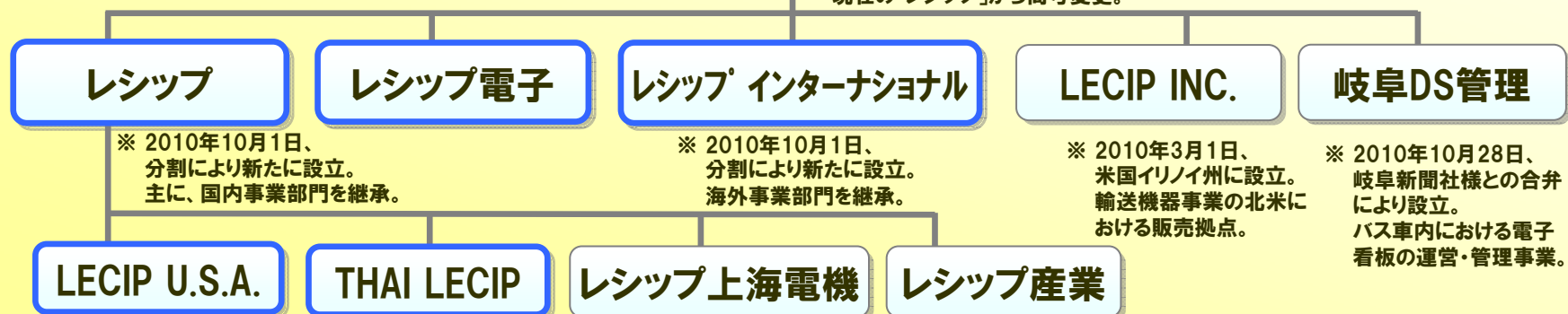
※ は、連結対象会社。

※ THAI LECIPは、S&D事業の事業構造改革に係り、今後、清算予定。

レシップホールディングス
(上場会社・純粋持株会社)

▶ レシップホールディングスが、純粋持株会社として、グループ全体を管理・統括。
(グループ戦略本社機能・グループサポート機能)

※ 2010年10月1日、現在の「レシップ」から商号変更。



※ 2010年10月1日、分割により新たに設立。主に、国内事業部門を継承。

※ 2010年10月1日、分割により新たに設立。海外事業部門を継承。

※ 2010年3月1日、米国イリノイ州に設立。輸送機器事業の北米における販売拠点。

※ 2010年10月28日、岐阜新聞社様との合併により設立。バス車内における電子看板の運営・管理事業。

▶ **1. 2011年3月期 上期業績の概要・主な項目の進捗状況**:P 5~P20

■ **2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況**:P22~P24

■ **3. 中長期的な成長に向けた取り組み**:P26~P33

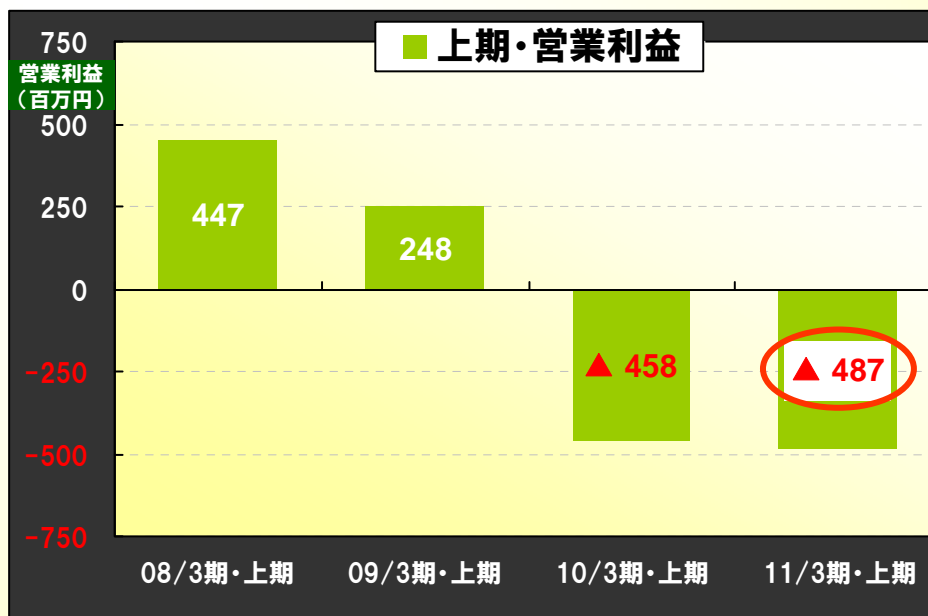
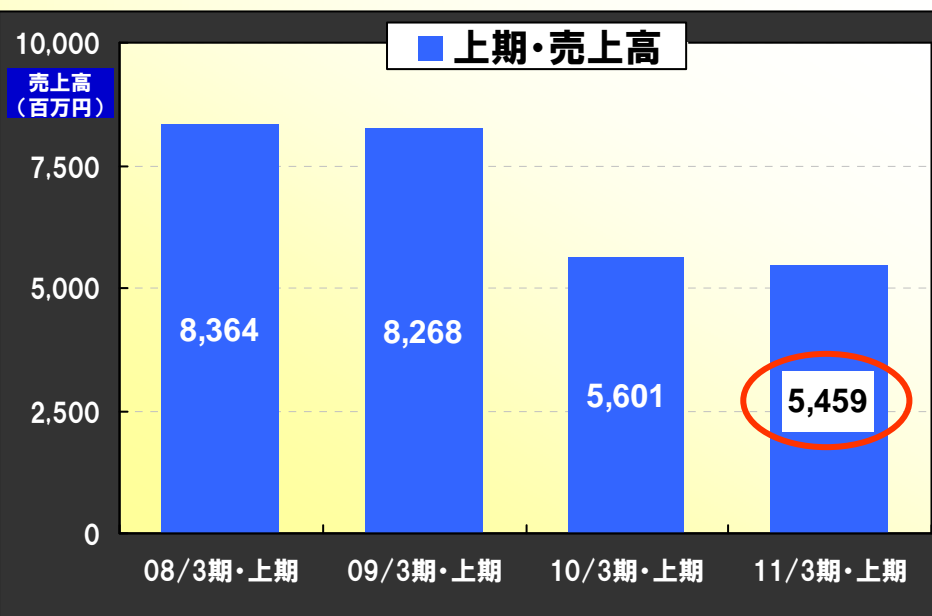
■ **【ご参考資料】**:P35~P41

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

2011年3月期 上期 連結業績の要約



【連結】 上期業績 (単位:百万円)	2010年3月期 上期		2011年3月期 上期				前期比 増減額 ④-①	前期比 増減率
	① 前期実績	構成比	② (10年5月) 当初発表 業績予想	③ (10年10月) 修正発表 業績予想	④ 当期実績	構成比		
売上高	5,601	100.0%	6,860	5,459	5,459	100.0%	▲142	▲2.5%
売上総利益	904	16.1%	—	—	780	14.3%	▲123	▲13.7%
営業利益	▲458	▲8.2%	▲25	▲477	▲487	▲8.9%	▲29	—
経常利益	▲450	▲8.0%	▲1	▲448	▲460	▲8.4%	▲10	—
上期純利益	▲374	▲6.7%	14	▲315	▲307	▲5.6%	+67	—



2011年3月期 上期 セグメント別業績



売上高 (単位:百万円)	2010年3月期 上期		2011年3月期 上期			
	前期実績	構成比	当期実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	3,772	67.4%	3,467	63.5%	▲305	▲8.1%
S&D事業	511	9.1%	384	7.1%	▲127	▲24.9%
産業機器事業	1,317	23.5%	1,607	29.4%	+290	+22.0%
連結売上高	5,601	100.0%	5,459	100.0%	▲142	▲2.5%

営業利益 (単位:百万円)	2010年3月期 上期		2011年3月期 上期			
	前期実績	構成比	当期実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	▲199	47.3%	▲272	64.0%	▲73	-
S&D事業	▲128	30.4%	▲135	31.8%	▲6	-
産業機器事業	▲94	22.3%	▲17	4.2%	+76	損失幅改善
計	▲422	100.0%	▲425	100.0%	▲3	-
消去・全社	(35)	-	(61)	-	+25	-
連結営業利益	▲458	-	▲487	-	▲29	-

上期業績のポイント

- ▶ 売上高・営業利益・経常利益： **減収減益**：輸送機器事業、S&D事業が落ち込む。
- ▶ 四半期純利益： **改善**：前年にあったタイの生産子会社THAI LECIP閉鎖に伴う費用計上が無くなる。
タイの土地建物売却に伴い、固定資産売却益を計上。

マイナス要因

輸送機器事業

- 各事業者様の設備投資の先送り傾向続き、主力のバス市場向け製品が、総じて低迷。
- 競争激化等による製品単価の下落。
- バス用運賃箱の大口物件の一部が、下期以降にずれ込む。

S&D事業

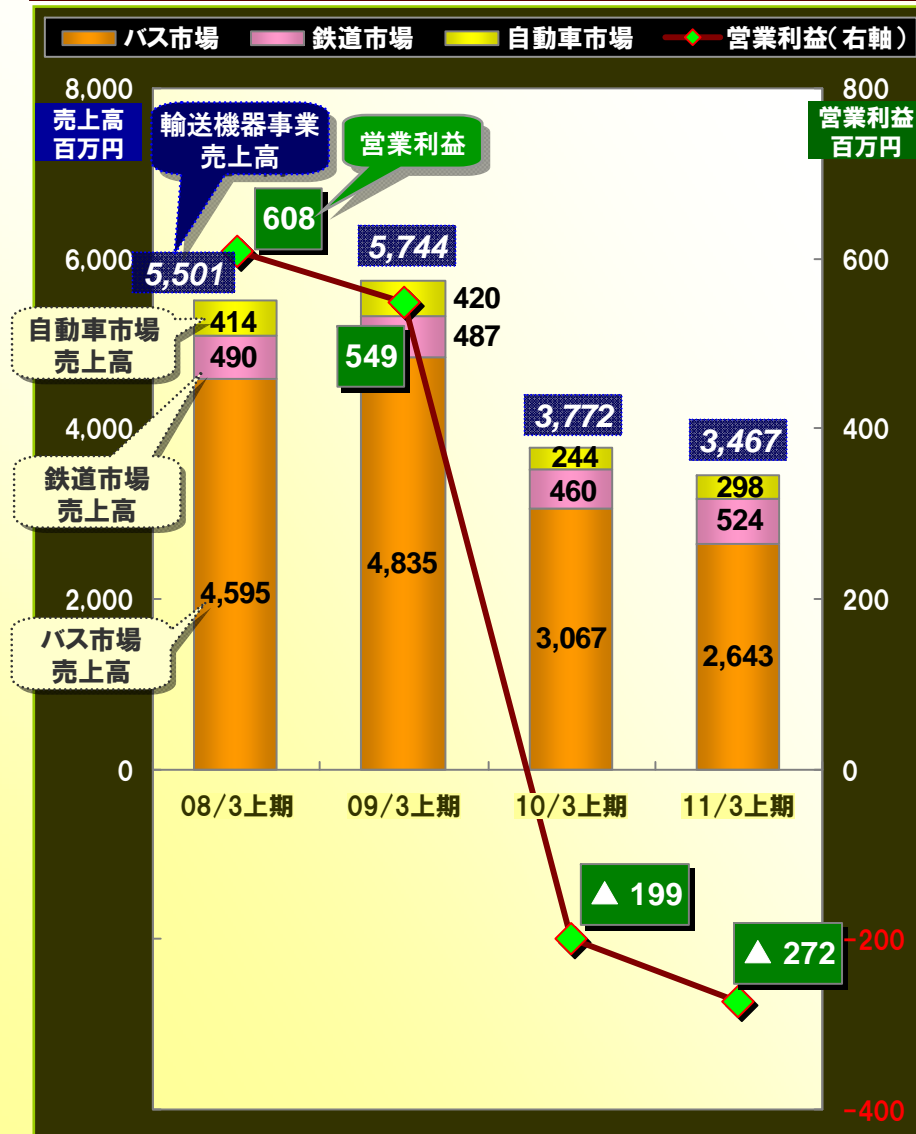
- 前期に実施した事業再編に伴い、米国向けネオン変圧器の売上が減少。
- LED電源の、新規先への拡販出遅れ。

プラス要因

産業機器事業

- 設備投資の回復を受け、バッテリー式フォークリフト用充電器が増加。
- エコカー補助金終了に伴う駆け込み需要も後押しとなって、自動車用電装品向け基板実装が増加。

▶ 輸送機器事業：上期：売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ 3億05百万円 ▲ 8.1%
■ 営業利益: 前期比 ▲ 73百万円 — %

バス市場製品売上高

前期比: ▲ 4億23百万円(▲13.8%)

- ▶ 業界内の設備投資先送り傾向、競争の激化等による製品単価下落
- ▶ 大口物件の一部が、下期にずれ込む
- ▶ 運賃箱、ICカードシステム、OBCなど主力のバス市場向け製品が総じて減少



鉄道市場製品売上高

前期比: + 64百万円(+13.9%)

- ▶ ワンマン機器、列車用灯具などが堅調推移



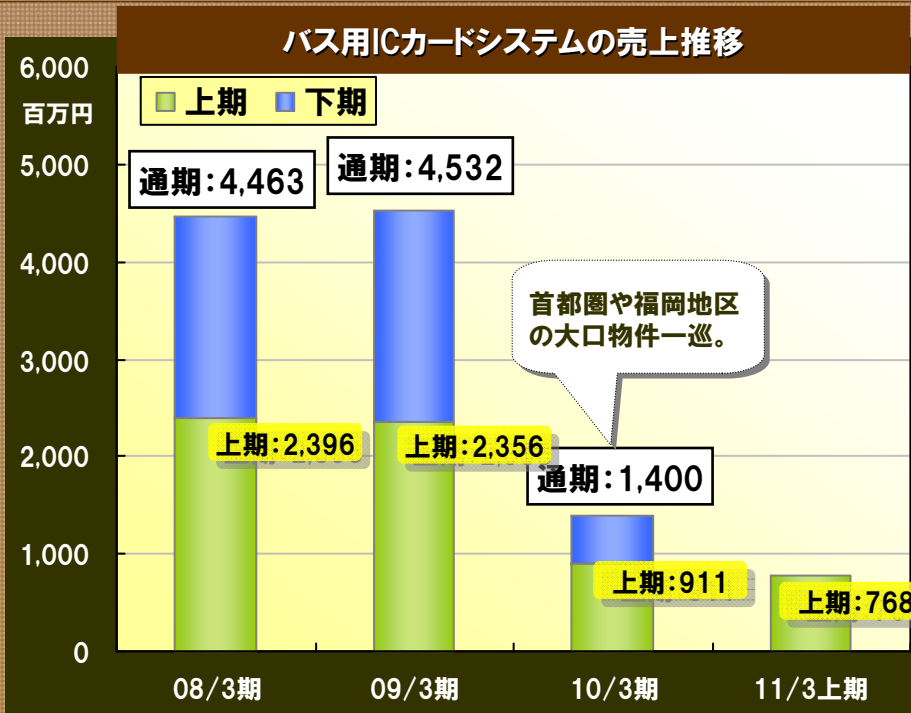
自動車市場製品売上高

前期比: + 54百万円(+22.1%)

- ▶ トラック販売台数の回復を受け、蛍光灯具、LED灯具が増加



バス用ICカードシステム（ICカード読み取り機能付運賃箱、ICカードリーダー・ライタ）

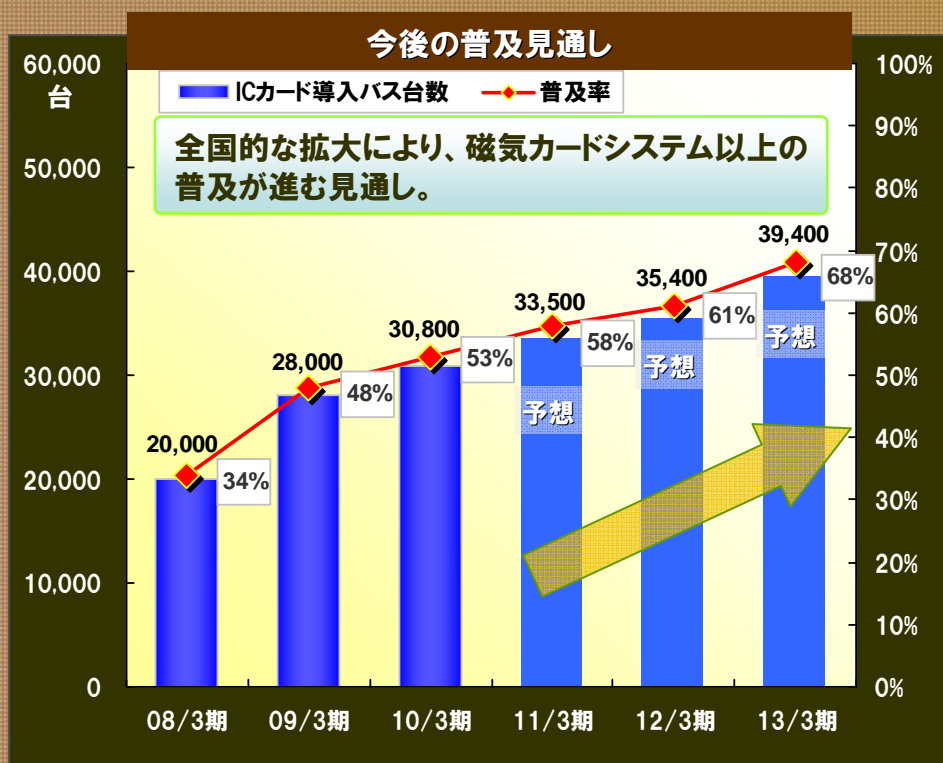
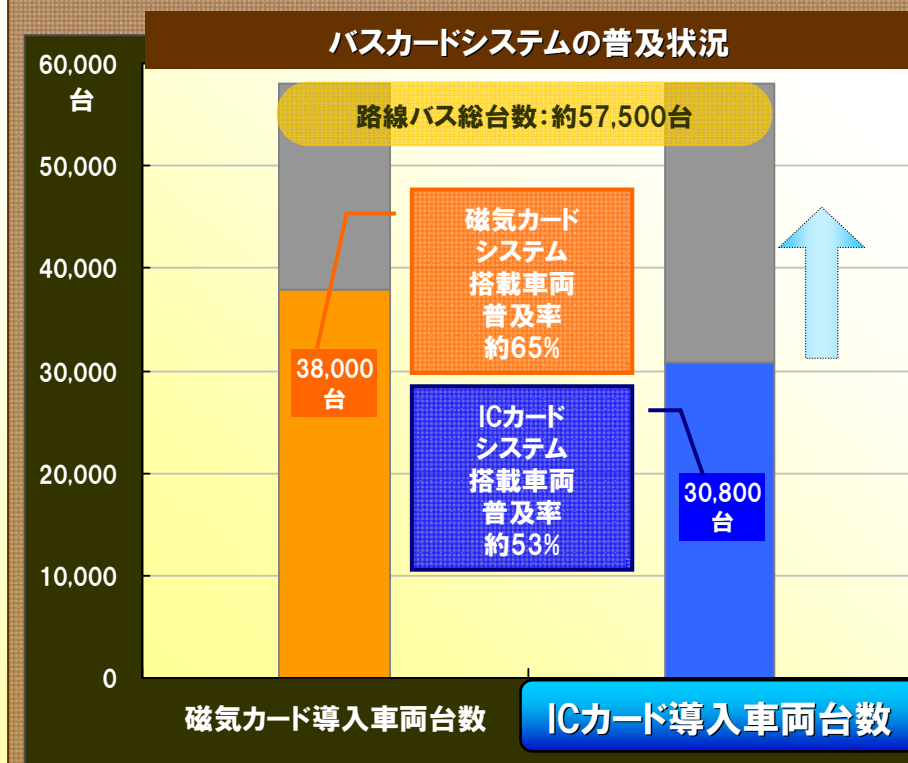


ICカード対応運賃箱 / ICカードリーダー・ライタ



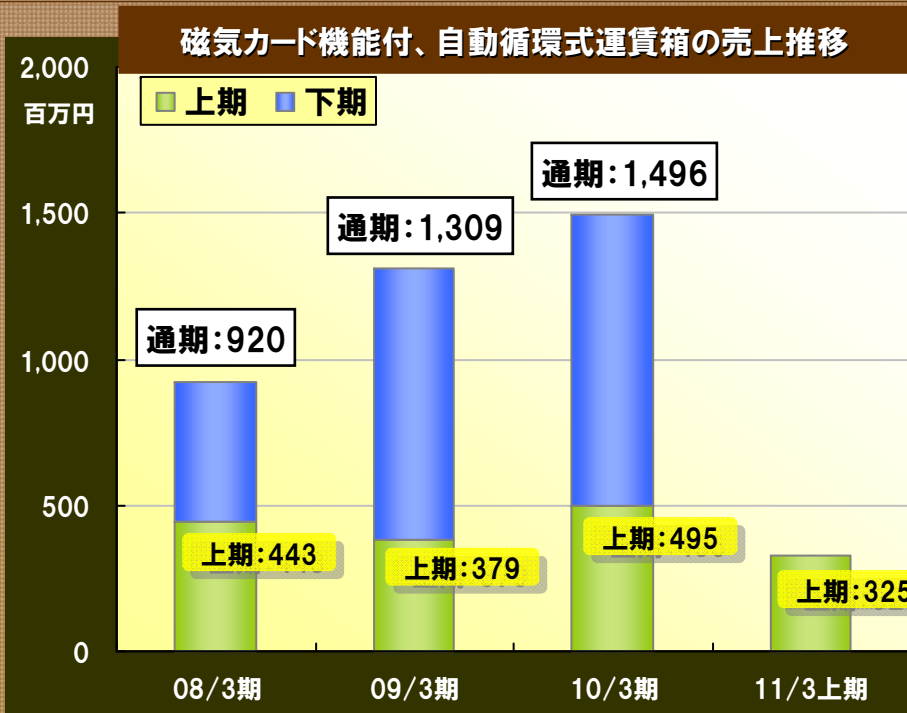
- 導入の先送り傾向続くなか、低調に推移
- これまでの実績を追い風に、引き続き、全国展開を推進
- 上期は、前年同期実績を下回るも、通期では、ほぼ前年並みの売上見通し
 ➡ 今期は、名古屋地区、新潟地区、大分地区、富山地区などへの納入を進める

バス用ICカードシステムの普及見通し



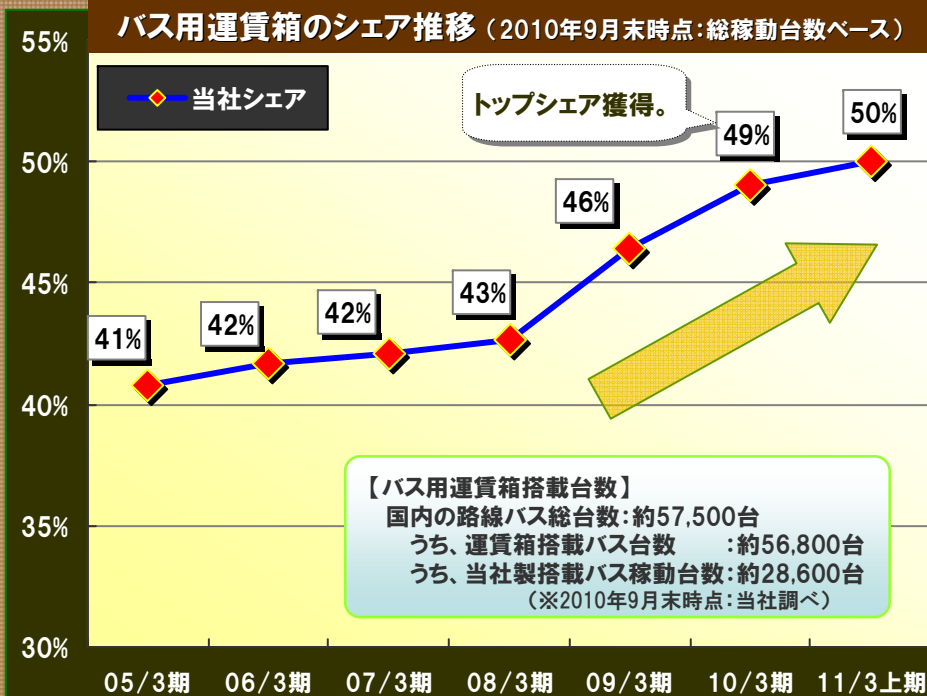
- バス用ICカードシステム導入車両台数：約30,800台・普及率：約53%
(国内の路線バス台数：約57,500台)
- 全国的な導入拡大により、普及率は、70%程度まで進む見通し
(従来型の磁気カードシステム導入車両ピーク台数：約38,000台・普及率約65%)

バス用運賃箱（磁気カード読み取り機能付運賃箱、自動循環式運賃箱）



- 上期に予定した大口物件の一部が、下期に期ずれ
- 今期は、業界内の設備投資先送り傾向続くなか、競争の激化等による単価の下落なども影響して、低調に推移
- 将来的な布石として、着実に受注を進め、シェア拡大に成功
 ➡ 今後、ICカードシステム等、その他関連製品の拡販に繋げていく

バス用運賃箱のシェア



従来型



新モデル:薄型運賃箱

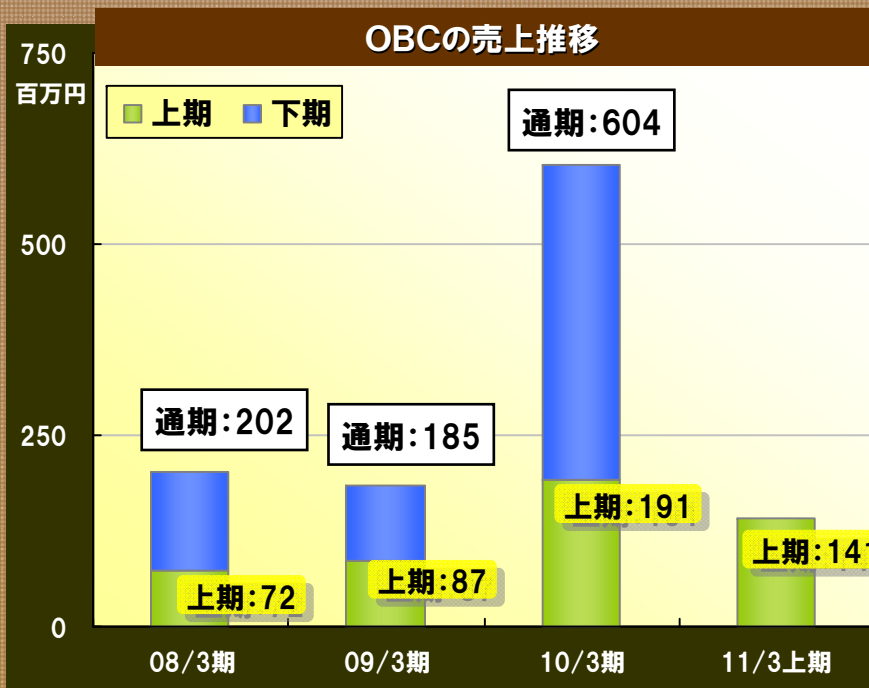


小型・高速紙幣循環機構の技術開発により、千円札最大80枚分の一時保留が可能。
 高額紙幣による両替やICカードへの積増入金が可能に。



- 前期に、シェア逆転し、初めてトツプシェア獲得。今期も続伸、上期時点のシェア:約50%
- 運賃箱の薄型化と、高額紙幣への対応を実現
 - ➡ バリアフリー、省エネに貢献:従来の機能はそのままに、20%以上の薄型・軽量化を実現
 - ➡ 乗客の利便性向上:1万円札、5千円札の高額紙幣両替、ICカードへの積増入金も可能に
- 得意とするICカードシステムの普及拡大も追い風
 - ➡ ICカードシステム導入の際、当社のICカード対応運賃箱が採用される

車載用液晶表示器OBC(オン・バス・コンピュータ)



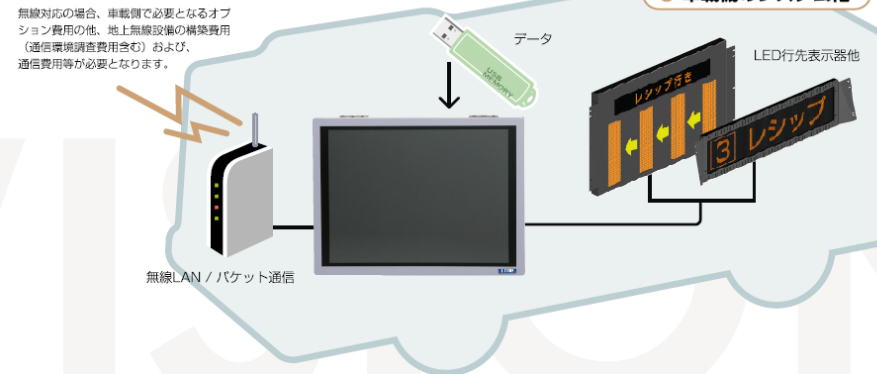
OBC(オン・バス・コンピュータ)



● 地上とのネットワーク化

無線対応の場合、車載機で必要となるオプション費用の他、地上無線設備の構築費用(通信環境調査費用含む)および、通信費用等が必要となります。

● 車載機のシステム化

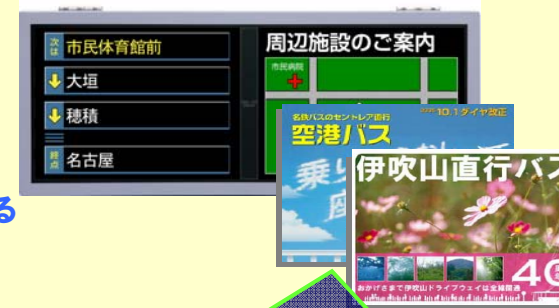


- 前期にあった大口物件の一巡等もあって、導入一服

- OBCを活用した新たな展開を推進

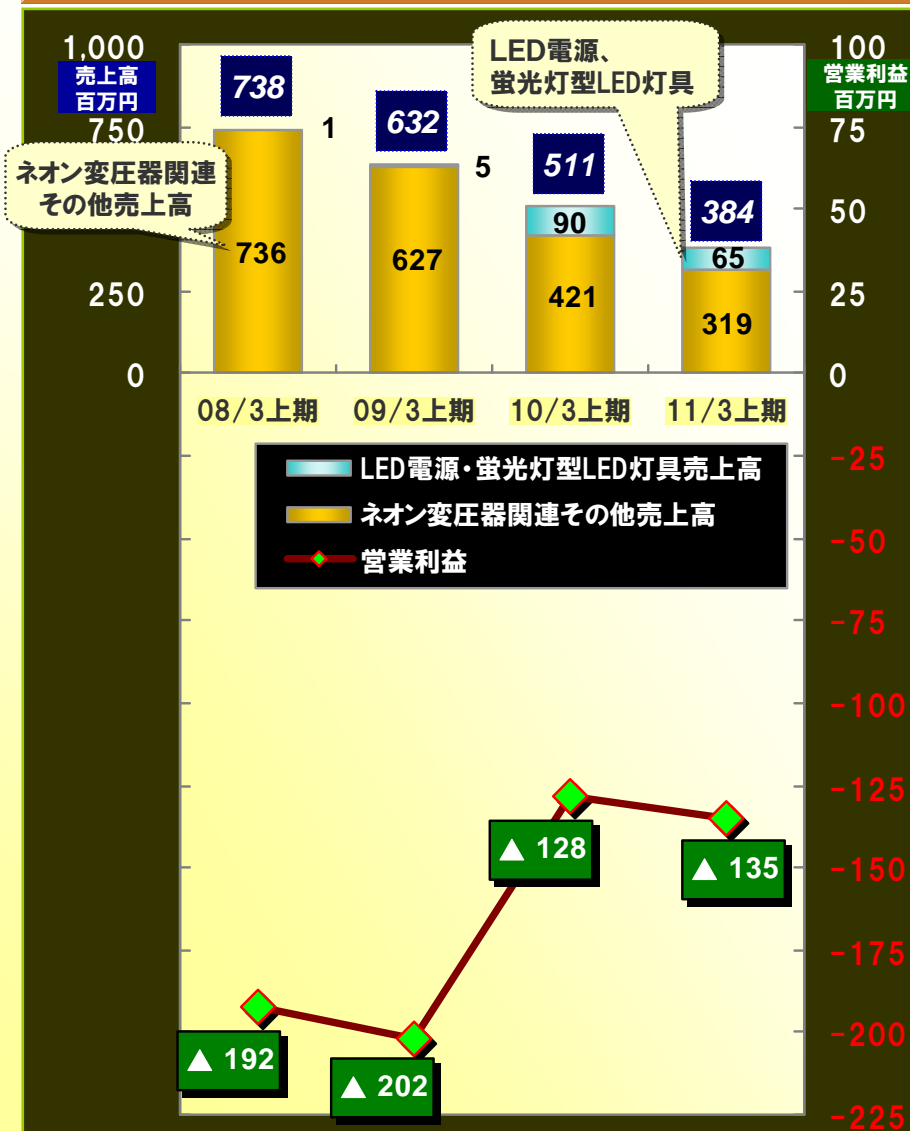
➡ 運行情報や乗換え・接続案内等、多くの有益な情報のリアルタイム配信を可能にする「リアルタイム乗客情報システム(PIS)」

➡ 路線バスにおいて、広告やニュース・天気予報などの表示を行うデジタルサイネージ「バスチャンネル」



運賃・停留所表示のほか、運行案内や、ニュース、CMなど多彩な情報配信が可能。

S&D事業: 上期: 売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ 1億27百万円 ▲ 24.9%
■ 営業利益 : 前期比 ▲ 6百万円 -

ネオン変圧器関連その他

- 前期比: ▲ 1億02百万円 (▲ 24.2%)
- ▶ ネオンサイン市場の縮小
 - ▶ 前期に実施した事業再編に伴い
米国向けネオン変圧器の売上が剥落 (▲ 1億49百万円)
 - ▶ 燃烧器具用変圧器等その他の小型変圧器は
やや持ち直す

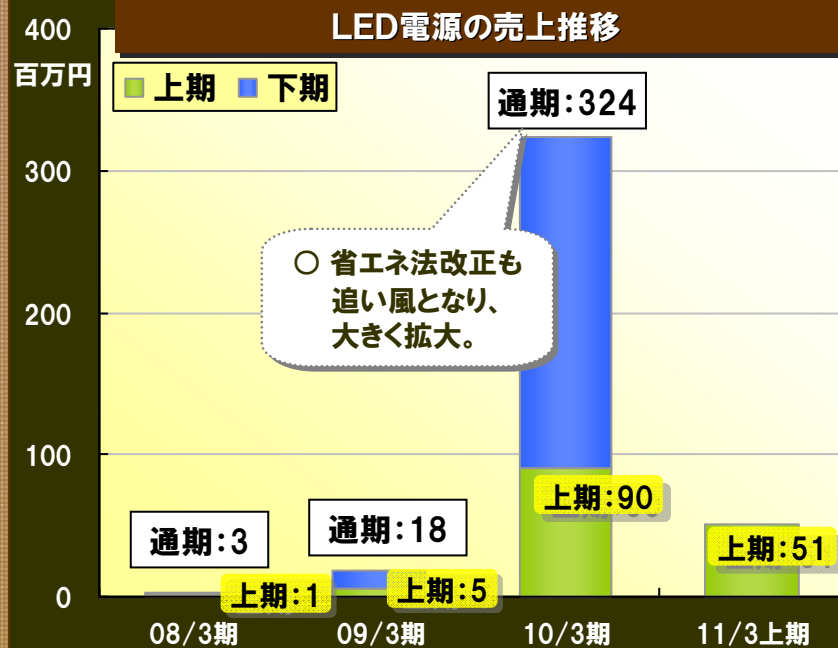


LED電源、蛍光灯型LED灯具

- 前期比: ▲ 25百万円 (▲ 28.0%)
- ▶ LED電源 (▲ 38百万円)
 - ▶ 蛍光灯型LED灯具 (+13百万円)
 - ▶ 新規先への拡販出遅れ



LED電源

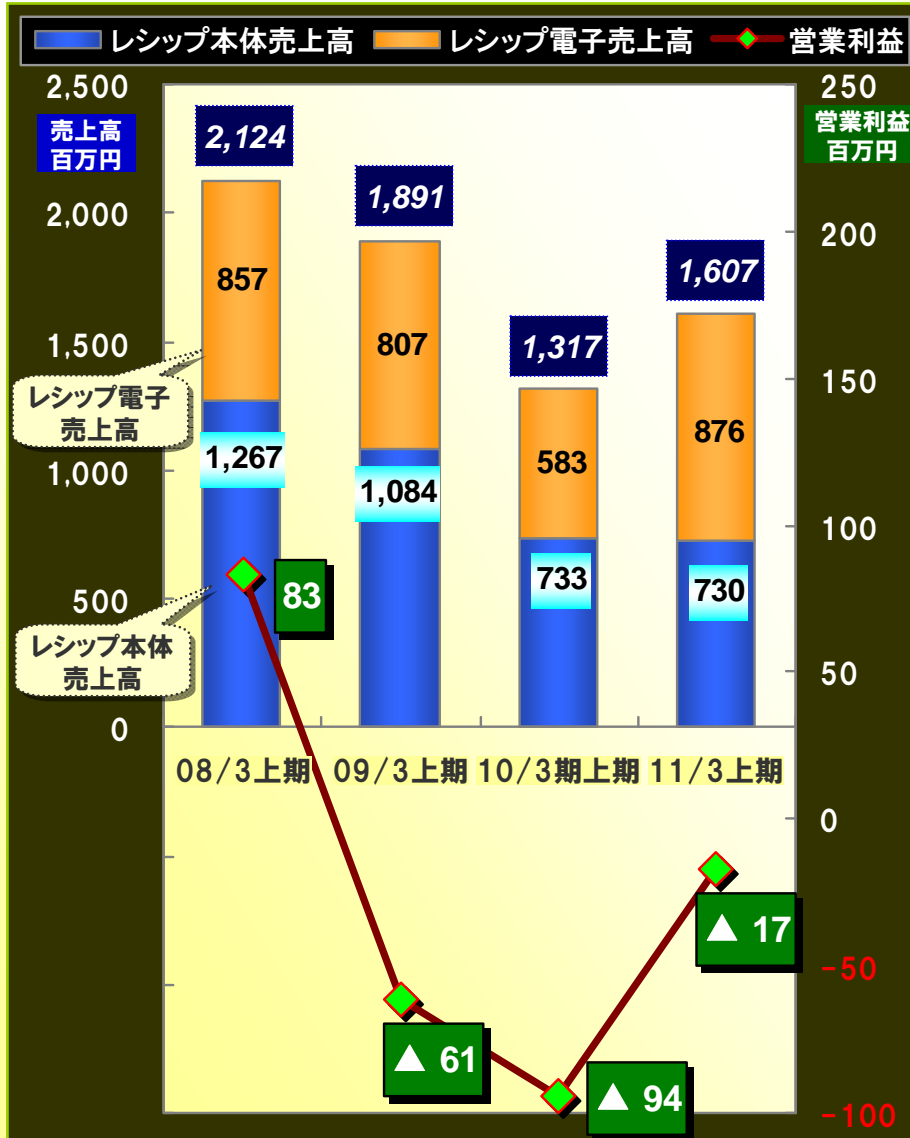


LED電源と蛍光灯型LED灯具



- 前期は、省エネ法改正も追い風となり、大きく拡大
- 店舗やオフィス等の、蛍光灯型LED灯具向けに、採用される
- 今期は、上期低迷するも、下期以降、LEDダウンライト向け等、新規先への納入により、通期では、前年実績を上回る見通し

▶ 産業機器事業：上期：売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ↗ + 2億90百万円 +22.0%
■ 営業利益: 前期比 ↗ + 76百万円 —

フォークリフト用充電器

前期比: + 84百万円(+29.9%)
 ▶ フォークリフト販売台数の回復



無停電電源装置

前期比: ▲ 52百万円(▲39.1%)
 ▶ 前年にあった更新需要の一巡



物販共用読み取り端末

前期比: ▲ 21百万円(▲55.1%)
 ▶ 流通業界における新規出店の手控え続く

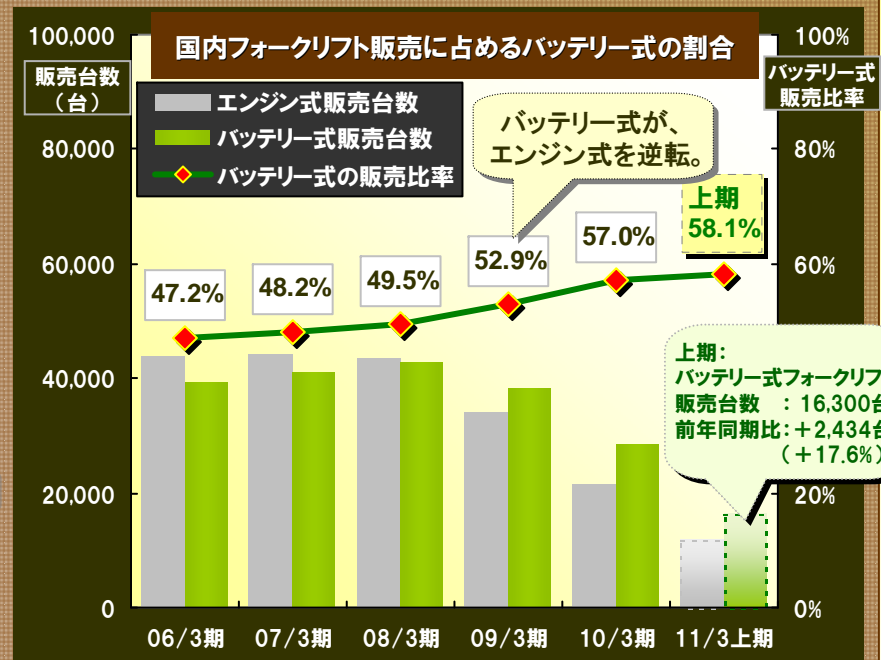
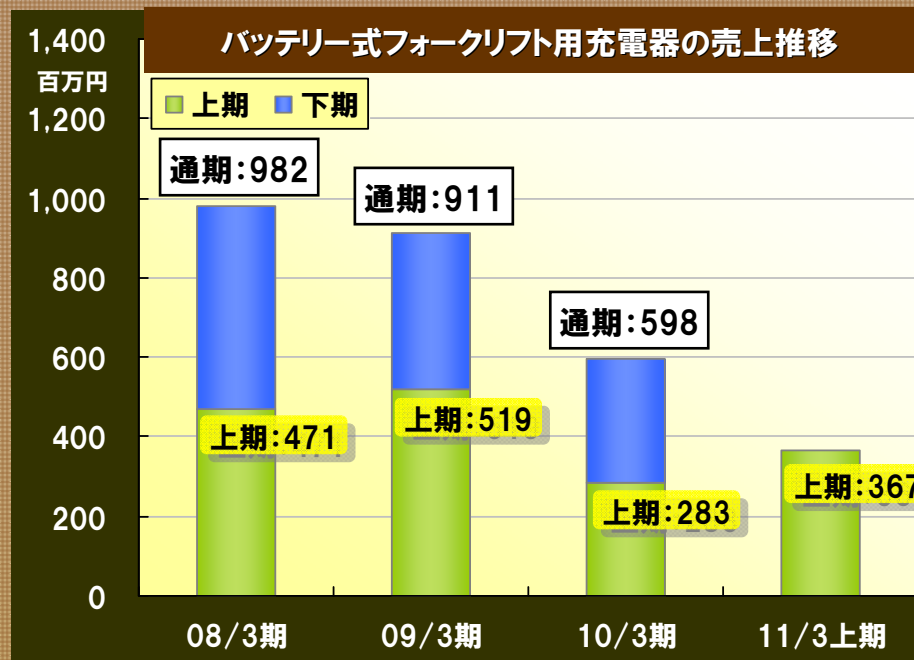


レシップ電子・プリント基板実装

前期比: + 2億92百万円(+50.2%)
 ▶ 自動車用電装品向け基板 (前期比: +3億74百万円)
 ▶ 電子機器向け基板 (前期比: ▲ 81百万円)



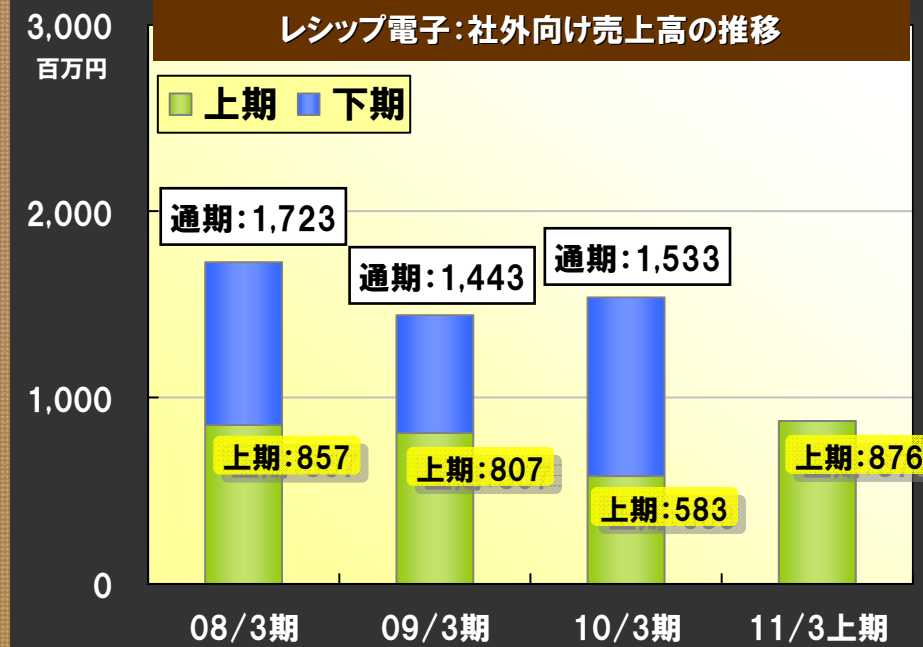
バッテリー式フォークリフト用充電器



- 企業の設備投資の回復を背景に、フォークリフト販売台数も戻り基調
 ➡ バッテリー式フォークリフト販売台数：前年同期比+2,434台(+17.6%)
- 環境対応を背景に、フォークリフト業界でもバッテリー式の販売比率高まる
 ➡ 国内フォークリフト販売に占めるバッテリー式の比率(11/3期・上期：58.1%)
- 今後も、バッテリー式の販売比率は高まる見通し
 ➡ 次世代電池対応に向けた開発推進



レシップ電子・プリント基板実装事業



レシップ電子・プリント基板実装ライン



- 電子制御化進む自動車用電装品向け基板の需要に対応
- 社外向け売上高は、電子機器向け低迷するも、自動車用電装品向けが拡大

➡ エコカー補助金終了に伴う駆け込み需要などが後押し

- 当社グループ内では重要な位置づけ

➡ 自社グループ内に基板実装ラインを有していることで、当社製品に使用される基板を安定的に調達できる強み
顧客の仕様にも柔軟かつスピーディに対応可能であり、高い信頼とご評価をいただく



上期 連結損益の状況



【連結P/L】	2010年3月期:上期		2011年3月期:上期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	5,601	100.0	5,459	100.0	▲142	
売上総利益	904	16.1	780	14.3	▲123	
販売管理費	1,362	24.3	1,268	23.2	▲93	人件費:▲103百万円
営業利益	▲458	▲8.2	▲487	▲8.9	▲29	
営業外収益	39	0.7	48	0.9	+8	
営業外費用	31	0.6	20	0.4	▲11	支払利息:▲4百万円、為替差損:▲7百万円
経常利益	▲450	▲8.0	▲460	▲8.4	▲10	
特別利益	4	0.1	86	1.6	+81	THAI LECIPの固定資産売却益: +47百万円、 賃貸不動産の中途解約違約金: +37百万円
特別損失	58	1.0	2	0.1	▲55	THAI LECIP閉鎖による減損損失:▲19百万円、 同現地従業員特別退職金:▲29百万円
税金等調整前純利益	▲503	▲9.0	▲376	▲6.9	+126	
法人税等合計	8	0.2	2	0.0	▲5	
法人税等調整額	▲137	▲2.5	▲72	▲1.3	+65	
上期純利益	▲374	▲6.7	▲307	▲5.6	+67	

上期 連結貸借対照表の主な増減項目



【連結B/S】	2010年3月期 期 末		2011年3月期 上 期 末			
	金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	7,987	75.9	6,372	72.0	▲1,614	売上債権 : ▲2,208百万円、 棚卸資産 : +403百万円
固定資産	2,534	24.1	2,476	28.0	▲57	有形固定資産 : ▲109百万円、 投資その他の資産 : + 54百万円
資産合計	10,521	100.0	8,849	100.0	▲1,672	
流動負債	4,324	41.1	2,941	33.2	▲1,383	仕入債務 : ▲604百万円、 短期借入金 : ▲660百万円、 未払法人税等 : ▲ 42百万円、 賞与引当金 : ▲ 20百万円、
固定負債	908	8.6	1,001	11.3	+93	長期借入金 : +131百万円
負債合計	5,232	49.7	3,942	44.6	▲1,289	
純資産合計	5,289	50.3	4,906	55.4	▲382	利益剰余金 : ▲403百万円
負債・純資産合計	10,521	100.0	8,849	100.0	▲1,672	

1. 2011年3月期 上期業績の概要・主な項目の進捗状況:P 5~P20

▶ 2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P22~P24

3. 中長期的な成長に向けた取り組み:P26~P33

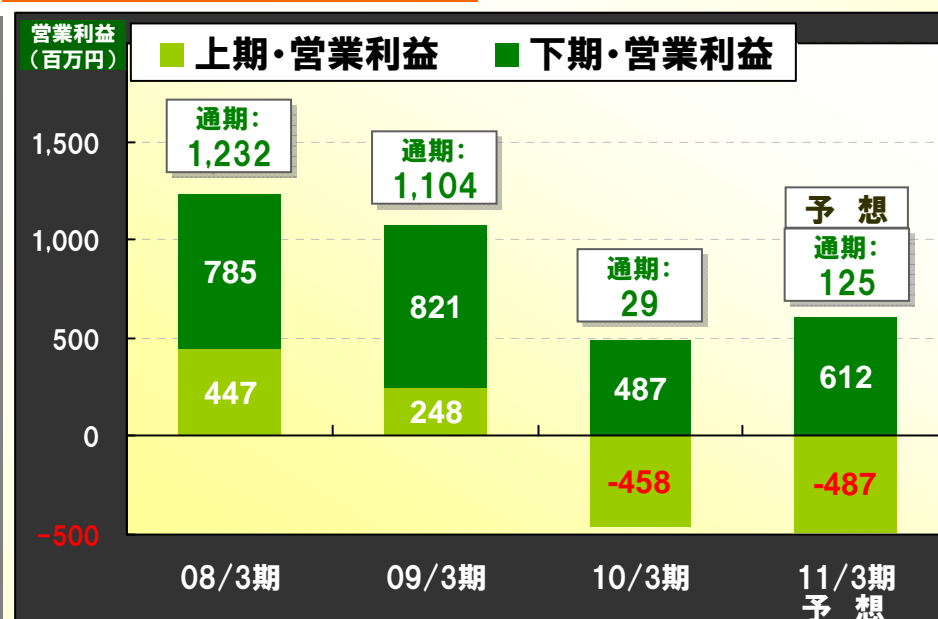
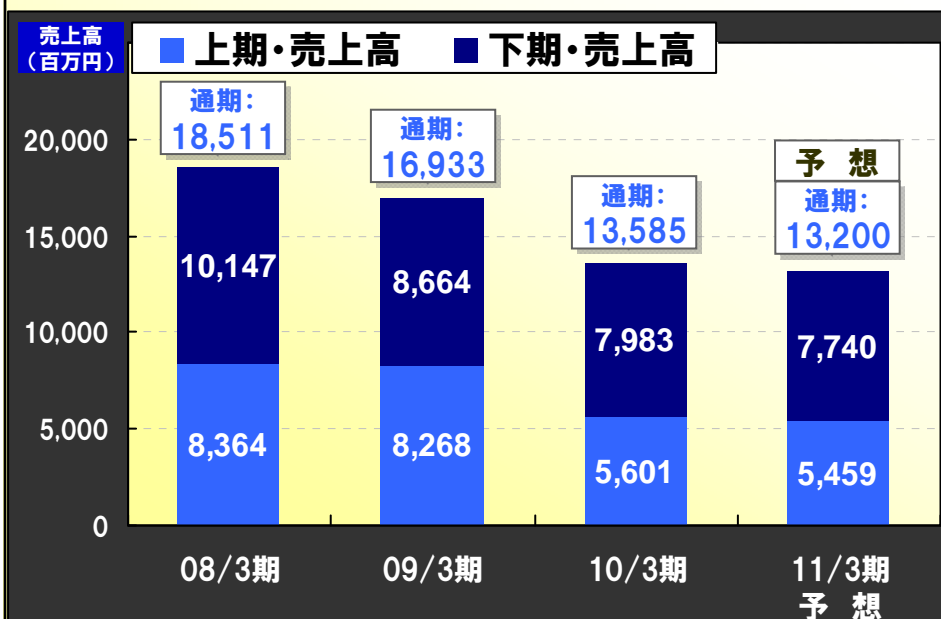
【ご参考資料】:P35~P41

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

2011年3月期 通期の業績見通し






連結業績予想 (単位:百万円)	2010年3月期		2011年3月期				
	① 前期実績	構成比	② (10年5月) 当初業績予想	③ (10年11月) 業績予想	構成比	前期比増減額 ③-①	前期比 増減率
売上高	13,585	100.0%	14,700	13,200	100.0%	▲385	▲2.8%
営業利益	29	0.2%	525	125	0.9%	+95	+323.3%
経常利益	64	0.5%	565	140	1.1%	+75	+118.5%
当期純利益	41	0.3%	335	59	0.4%	+17	+41.0%
E P S(円)	6円55銭	—	52円42銭	9円23銭	—	+2円68銭	+41.0%









通期業績予想のポイント

■ 当初予想比 :  10月19日に **下方修正**


当初予想比	内 容
輸送機器 	設備投資の先送り傾向が続くものと予想され、主力のバス市場向け製品が想定を下回る
S&D 	LED電源や、蛍光灯型LED灯具の拡販出遅れ
産業機器 	エコカー補助金終了もあり、下期以降、レシップ電子の自動車向け基板実装が落ち込む

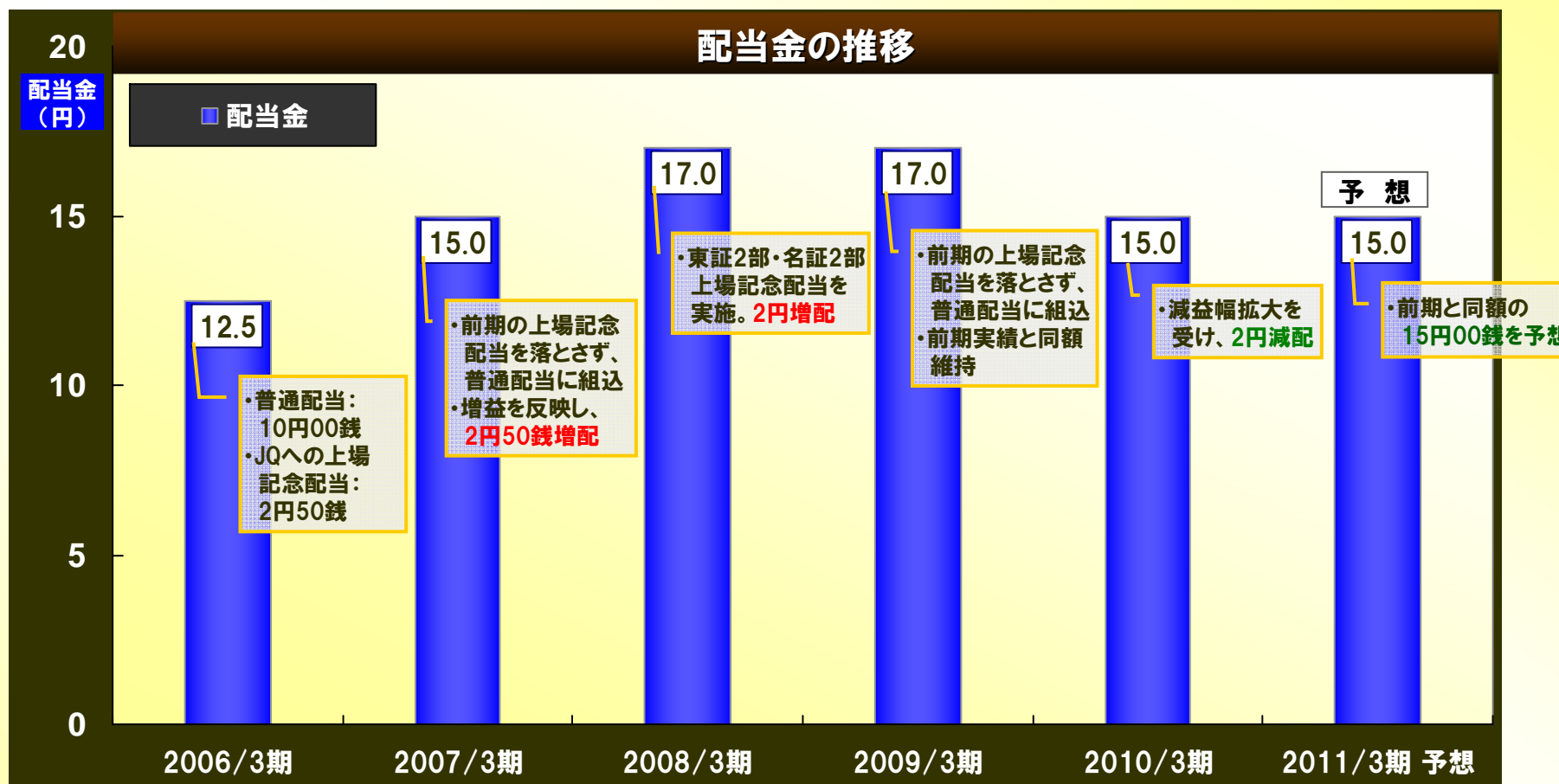
■ 前 期 比

▶ 売上高 :  当初の想定では、輸送機器とS&Dの拡大により、増収見込むも、一転、 **減収見通し**

前 期 比	内 容
輸送機器 	 バス用運賃箱など、主力のバス市場向け製品の減少
S&D 	 LED電源の増加見込むものの、拡販の出遅れが響き、米国向けネオン変圧器からの撤退による剥落分補いきれず
産業機器 	 無停電電源装置などの落ち込みに加え、下期以降、レシップ電子の自動車向け基板実装が、減少に転じる見通し

▶ 利益面 :  当初の想定からは、増益幅縮小するも、 **増益見通し**

前 期 比	内 容
利益面 	S&D事業において、事業再編効果による損失幅の改善が見込まれる 人件費をはじめとする全社的な経費削減活動を強力に推進



- 2011年3月期の配当予想は、引き続き、**15円を維持**
- 継続的かつ安定的な利益還元に努める

1. 2011年3月期 上期業績の概要・主な項目の進捗状況:P 5~P20

2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P22~P24

▶ **3. 中長期的な成長に向けた取り組み**:P26~P33

【ご参考資料】:P35~P41

- 会社概要・事業内容・主なトップシェア製品
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

—2010年度～2012年度：中期経営計画—

【 CE2012 】

CE = Comfortable Everyday 「快適な日常」

【経営理念】

「省エネルギー」・「地球環境対応」・「セキュリティ強化」を通じて、
快適な日常を実現するための製品・サービスを社会に提供する。

【当社の課題】

- ポストICカードシステム、 ● 国内市場成熟化
- ⇒ ICカードシステムに続く「新規基幹商品の育成」
- ⇒ 「海外市場展開」

【社会全体の課題】

- 省エネルギー・地球環境対応
- ⇒ 公共交通の利用促進
- ⇒ 環境対応製品の普及促進

【 CE2012における基本方針 】

- 周辺市場の取り込み及び新市場への参入
- 提案型企业への脱皮
- 業務の見直し、経費節減意識の向上

【 重点課題 】

- 新商品開拓への力強い熱意
- 五つの総ての市場での海外展開
- コスト競争力の強化

【今後の成長に向けた方向性】

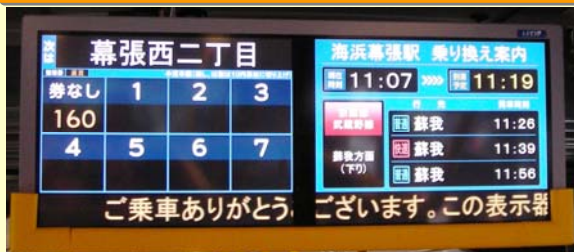
リアルタイム乗客情報
システムの推進

LED関連ビジネス
の強化

海外市場展開
の強化

リアルタイム乗客情報システム(PIS)の推進

● バス車内で



● 駅やバスターミナルで



バス車内に加え、
屋外にも表示器を設置し、
ネットワーク化

あらゆる情報を
文字・イメージ・マルチ言語・音声で
リアルタイム配信

- ▶ バス接近表示情報
- ▶ 乗換の案内
- ▶ 周辺施設の案内
- ▶ 遅延・運休情報
- ▶ ニュース・CM
- ▶ 緊急情報
(事故、火災、地震、気象)
- ▶ 災害情報
(避難指示、安全、消息情報)

● 病院等施設の待合室で



● バス停で



● 携帯電話で



リアルタイム乗客情報システム(PIS)のご採用事例

● バス車内で



次は **幕張西二丁目**

券なし 1 2 3
160
4 5 6 7

海浜幕張駅 乗り換え案内

現在時刻 11:07 >>> 到着予定 11:19

行先	発車時刻
蘇我 (普通)	11:26
蘇我 (快速)	11:39
蘇我 (普通)	11:56

ご乗車ありがとうございます。この表示器

次は **マリスタジアム**

Next Marine Stadium

下一站 海洋球场

다음은 마린스타디움

海浜幕張駅 乗り換え案内

現在時刻 16:50 >>> 到着予定 17:00

行先	発車時刻
府中本町 (普通)	17:05
東京 (普通)	17:10
東京 (快速)	17:12

雪の影響により、ただいま総武線は約15分

リアルタイム乗客情報システム(PIS)のご採用事例

● バスターミナル・バス停で

大型液晶type

BSD-05-01
46インチ液晶採用



バス停据付type



大型LEDtype

BSD-04-02
64mm角LED 10色



路線バスにおけるデジタルサイネージ「バスチャンネル」事業の推進



▶ 表示内容は、リアルタイムに更新可能



- 路線バスにおける「デジタルサイネージ事業」に参入
 - ▶ バス車内に、液晶表示器を設置して、動画広告・ニュース・天気予報等を表示
 - ▶ 地域密着型の情報配信サービスとして、新たな情報配信ツールとしての効果が期待できる
- パケット通信を利用して、表示内容のリアルタイム更新が可能
 - ▶ 路線や時間帯、客層に合わせた効果的な情報配信も可能に
- 岐阜新聞社様と共同で、デジタルサイネージに特化した新会社(運営管理会社)を設立
 - ▶ 出資比率:当社 60%、岐阜新聞社様 40%
 - ▶ 当社が持つ液晶表示器OBCの技術、岐阜新聞社様が持つ広告・宣伝のノウハウ、ニュース等のコンテンツとの融合による、新たなビジネス展開

LED関連ビジネスの強化

LED電源と蛍光灯型LED灯具



運転席・荷室照明用LED灯具



車載用LED電球



ソーラー式バス停LED灯具

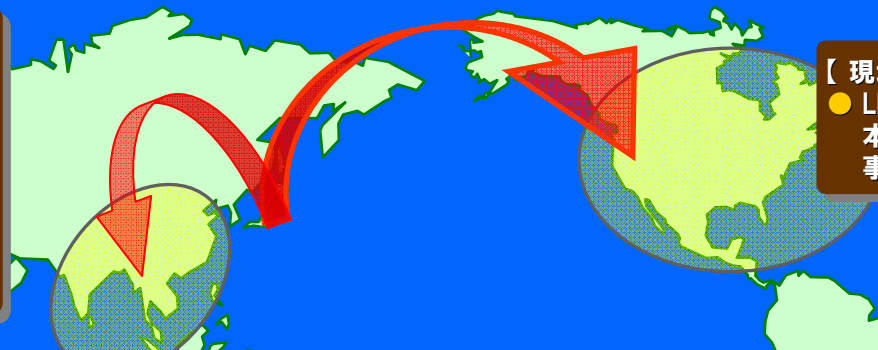


- 店舗やオフィス等の屋内照明や屋外看板、車載照明の分野でLED関連ビジネスを展開
- 当社製品の強みは、優れた「耐久性」
 - ▶ 長年の、屋外向け、車載向け等、厳しい使用環境向けの製品開発を通じ、多くのノウハウを蓄積
- 長寿命のLEDでは、製品の「耐久性」もポイント
 - ▶ 優位性を活かした、高品質の製品開発と拡販戦略を推進

海外市場展開の強化

【これまでの主な納入実績】

- シンガポール
:バス用磁気カードシステム、
料金箱、発券機、表示器、
バス総合運行管理システム
- マレーシア:磁気カードシステム
- 香港:ICカードリーダー
- 中国:鉄道用蛍光灯具 等々

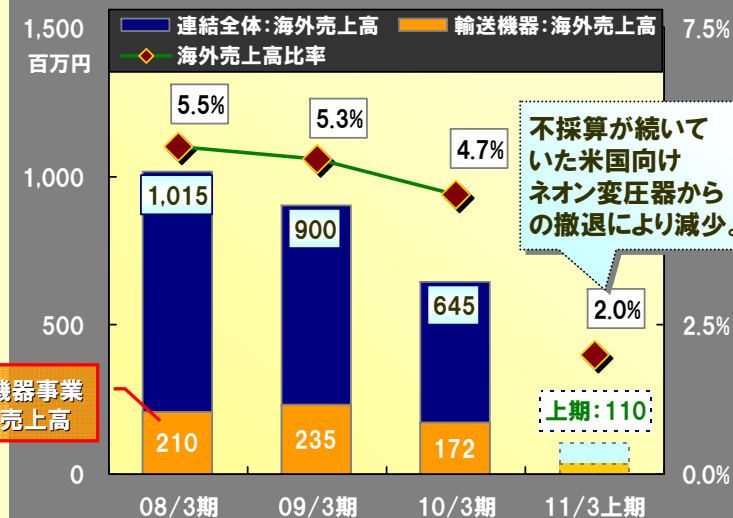


【現地法人】

- LECIP INC.
本社:イリノイ州
事務所:ニューヨーク



- 主力の輸送機器事業を中心に、海外市場展開を強化
- バス市場向け製品では、シンガポール・香港等アジア地域への営業強化に加え、北米市場の開拓を推進
- 鉄道市場向け製品でも、車両用灯具での参入を図るべく、海外案件の受注活動と、製品開発を推進
 - ▶ 受注拡大続く日本の車両メーカー様と、現地事業者様へのアプローチ継続
- 現地の事業基盤を整備し、体制面強化
 - ▶ 2010年 3月:現地販売子会社LECIP INC.設立
 - ▶ 2010年11月:新たに、ニューヨーク事務所開設



海外市場展開の強化

● 北米市場向けバス用運賃收受システムの開発



- 海外向け運賃收受システムを専門に開発する部署を立ち上げ、
現地のニーズに即した北米市場向け製品を開発
 - ▶ ドル紙幣・クレジットカード決済への対応
- 技術力でのアドバンテージを活かし、現地メーカーとの差別化を図る
 - ▶ 国内向け製品の開発で培った処理スピードが速い運賃自動計数機能や、視認性の高い液晶表示機能を搭載
- 現地での販売体制面の強化と、北米市場向け製品の開発を足がかりに、海外市場展開を加速

1. 2011年3月期 上期業績の概要・主な項目の進捗状況:P 5~P20

2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P22~P24

3. 中長期的な成長に向けた取り組み:P26~P33

▶ **【ご参考資料】:P35~P41**

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

【ご参考】:会社概要



会社名	: レシップホールディングス株式会社 (LECIP HOLDINGS CORPORATION)
設立	: 1953年3月
代表者	: 代表取締役社長 杉本 眞
本社所在地	: 岐阜県本巣市上保1260番地の2
連結従業員数	: 475名 (2010年9月末現在)
資本金	: 7億3,564万円
発行済株式総数	: 6,399,100株
上場証券取引所	: 東京証券取引所市場第2部、名古屋証券取引所市場第2部
証券コード	: 7213
連結子会社	: レシップ株式会社 : レシップ電子株式会社 : レシップインターナショナル株式会社 : THAI LECIP CORPORATION LIMITED : LECIP U.S.A.,INC.
経営理念	: 「省エネルギー」・「地球環境対応」・「セキュリティ強化」を通じて、 快適な日常を実現するための製品・サービスを社会に提供する。

■ 輸送機器事業

■ S & D(サイン&ディスプレイ)事業

■ 産業機器事業

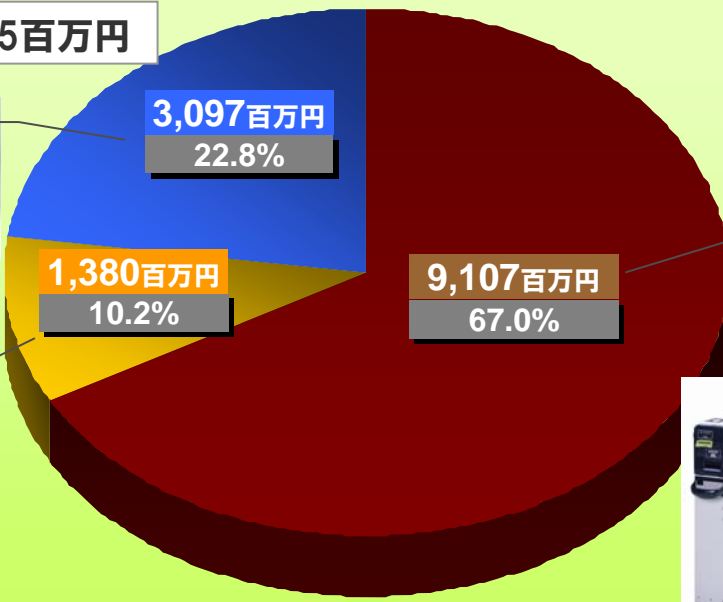
【ご参考】2010年3月期 通期の事業セグメント別売上高

2010/3期 連結売上高:13,585百万円

【産業機器事業】
充電器、無停電電源装置、
物販共用読み取り端末、
プリント基板実装



【S & D事業】
LED電源、ネオン変圧器、
屋外用電子安定器、CCL



■ 輸送機器
■ S & D
■ 産業機器

【輸送機器事業】
バス・鉄道用運賃箱、
ICカードシステム、
OBC(液晶表示器)、
LED式行先表示機器、
車載用照明機器



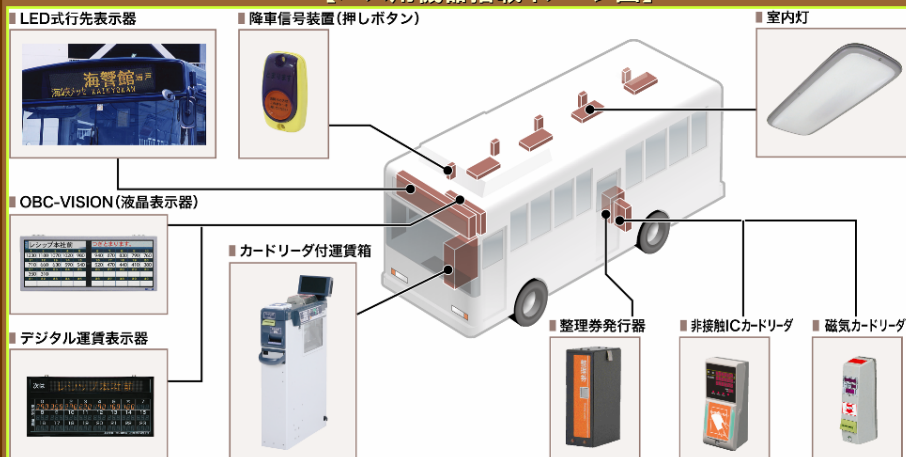
輸送機器事業

● バス市場向け製品



- 国内唯一の、「バス用電装機器トータルサプライヤー」ワンストップソリューションを実現
- バス用ICカードシステムのパイオニア
- 多くの製品で国内トップシェアを獲得

=====【バス用機器搭載イメージ図】=====



● 鉄道市場向け製品



- ワンマン鉄道用機器と、車両用灯具を展開
- 鉄道用ワンマン機器は、国内90%以上のシェアを獲得

● 自動車市場向け製品



- 自動車用蛍光灯具のパイオニア、国内トップシェアを獲得
- LED灯具・LED電球の拡販推進

S&D事業



LED電源

(巻線式) ネオン変圧器 (電子式)



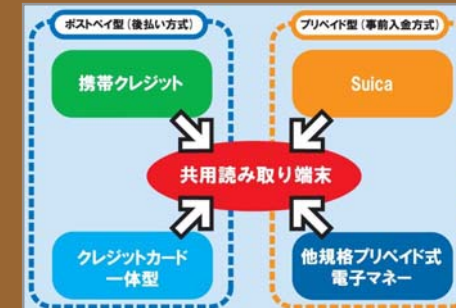
CCLのご採用事例 東京・銀座 横浜・みなとみらい CCL(Cold Cathode Lamp)

- 不採算が続いていた米国向けネオン変圧器から撤退
- LED電源の需要が拡大。LED照明の普及が追い風
- 建築・施設照明向けライティングシステム・CCLを展開

産業機器事業



フォークリフト用充電器



物販共用読み取り端末



プリント基板実装ライン



- フォークリフト用充電器で国内トップシェアを獲得
- 複数規格の電子マネーに対応する物販共用読み取り端末の開発・製造
- 連結子会社 レシップ電子において、プリント基板実装事業を展開

【ご参考】：主な経営指標の推移

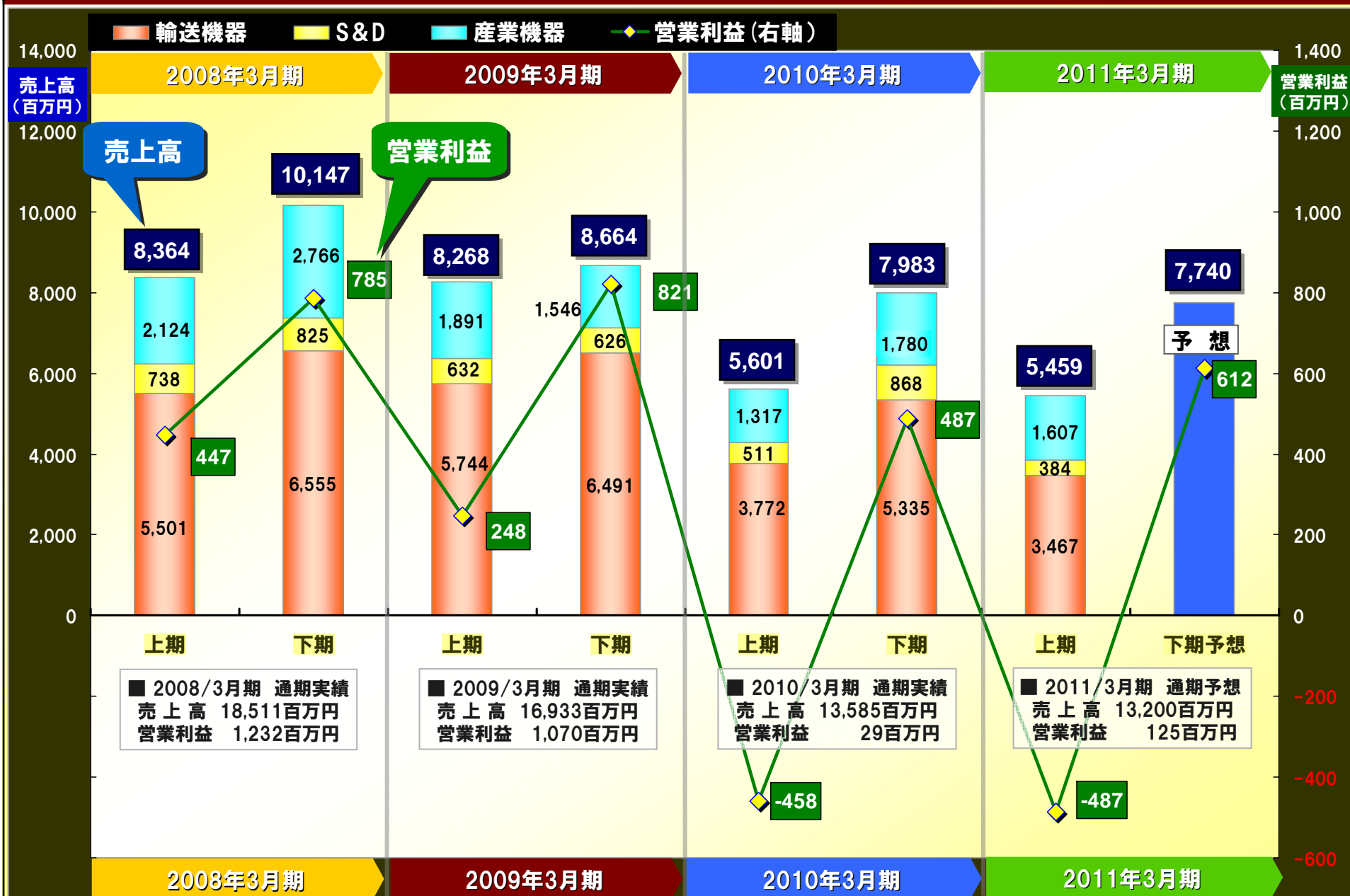


(単位:百万円)

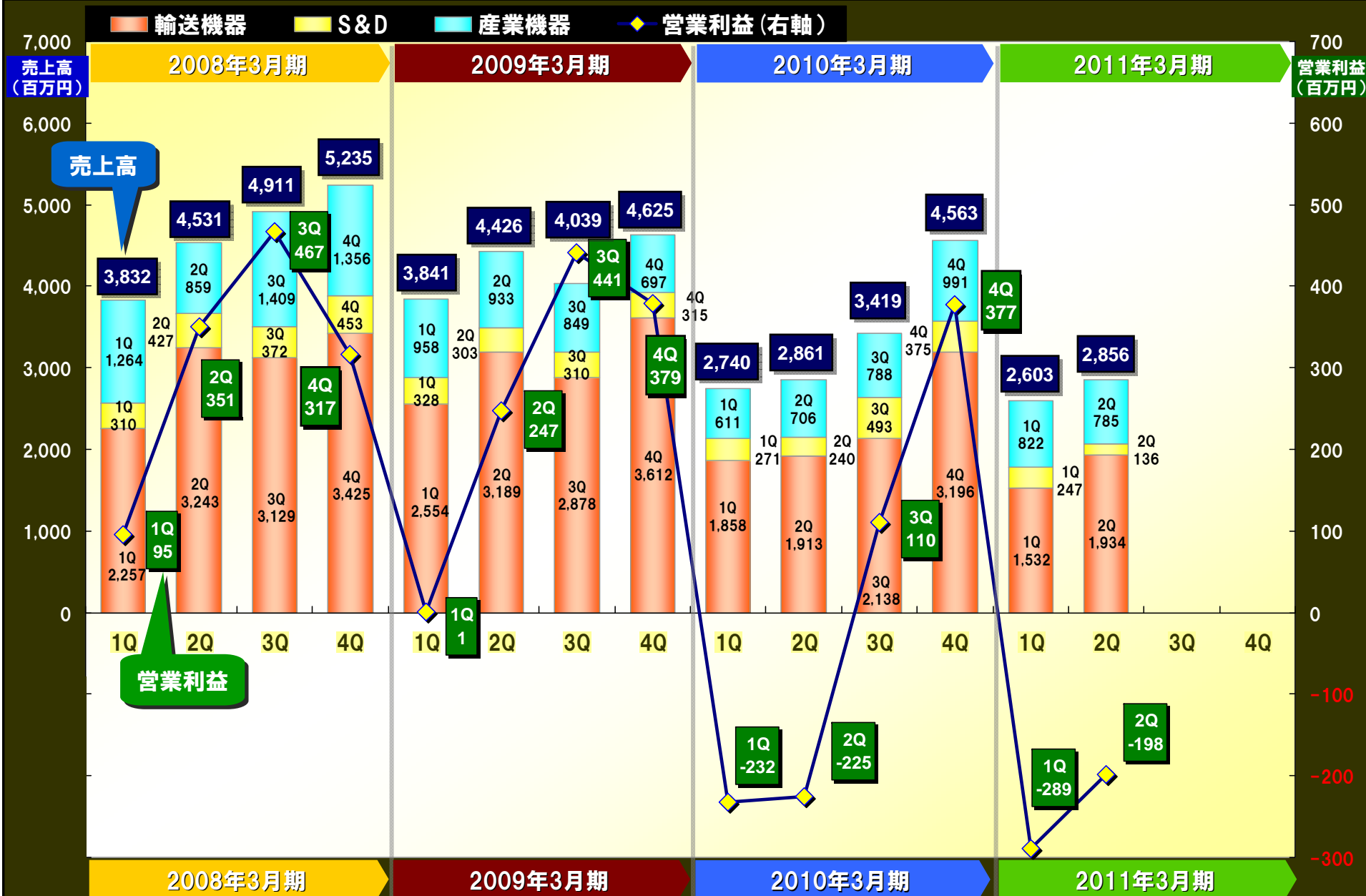
主な経営成績 指標の推移	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期 予想
売上高	15,717	16,346	17,233	17,572	18,511	16,933	13,585	13,200
営業利益	400	1,122	1,089	1,189	1,232	1,070	29	125
営業利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.7	6.3	0.2	0.9
経常利益	390	1,124	1,086	1,191	1,208	1,104	64	140
経常利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.5	6.5	0.5	1.1
当期純利益	▲100	654	622	668	686	521	41	59
当期純利益率(%)	▲0.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.1	0.3	0.4
総資産	10,267	10,529	10,512	11,533	11,470	10,417	10,521	—
純資産	1,888	2,519	3,895	4,408	4,995	5,339	5,289	—
自己資本比率(%)	18.4	23.9	37.1	38.2	43.5	51.2	50.3	—
EPS(円)	▲18.05	107.70	96.29	104.68	107.38	81.61	6.55	9.23
ROE(%)	—	29.7	19.4	16.1	14.6	10.1	0.8	—
BPS(円)	338.36	441.66	599.65	689.82	781.66	835.49	827.65	—

※2004年3月期につきましては、退職給付制度改革を実施し、確定拠出年金制度への全面移行に伴い、退職給付制度変更損失397百万円を計上したため、当期純損失となっております。

【ご参考】：上期・下期別の業績推移



【ご参考】：四半期ごとの業績推移



LECIP

GROUP

レシップホールディングス株式会社

【資料お問合せ先】

IR担当役員：常務取締役 山口 芳典

電話番号：(058)323-7647

IR担当者：人事総務部兼経営管理部 野村 武史

電話番号：(058)324-3121

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。